

電流流れやすいリッツ線

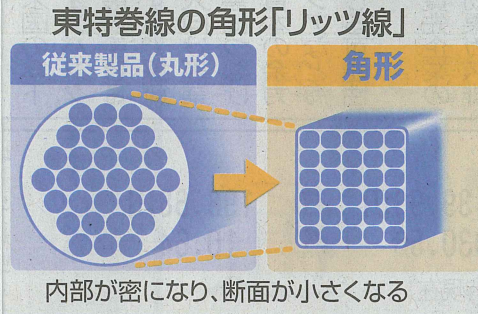
上田の東特巻線 圧力加え角形に成形

EV非接触充電 効率的に

電線製造の東特巻線(上田市)は、各種電源装置に組み込む電線「リッツ線(より線)」の新製品を開発した。従来製品は、断面が丸く細い銅線を数本より合わせた丸形だが、特許出願中の独自技術で角形に成形したリッツ線は、電流がより流れやすくなり、充電効率が向上。コイルとして使えば大きな電流が流れ、電気自動車(EV)用の大型バッテリーにも非接触で充電できる。EVの本格普及を見据えて販売を強化する。



断面を角形にした東特巻線のリッツ線。EVの非接触充電装置などへの採用を目指す



同社は、各種電線製造販売の東京特殊電線(東京)の一部製造部門が独立して1956(昭和31)年に設立。各種コイルやハーネス(組み電線)加工なども手掛ける。主力のリッツ線は、エナメル塗料で絶縁加工した断面直径0.1ミリの前後の銅線をよって作る。パソコンや家電などの電源装置にも使われている。

一方、自動車業界はEV普及を見据え、スマートフォンなどで実用化されている非接触充電をEVの大容量バッテリーで実現できないか模索。車載機器メーカーなどから「より大容量の電流が流れる高効率のリッツ線が欲しい」との打診を受けた東特巻線

自動車業界では将来、非接触充電装置を道路に埋め込み、走行中のEVに充電する構想もある。本多豊社長は「EV以外の機器にも非接触充電が広まる可能性があり、高効率の角形のリッツ線の需要は高まるだろう」と強調。22年3月期に約12億円を見込む売上高は、角形の販売により、3年後に16億円程度に伸ばす計画だ。

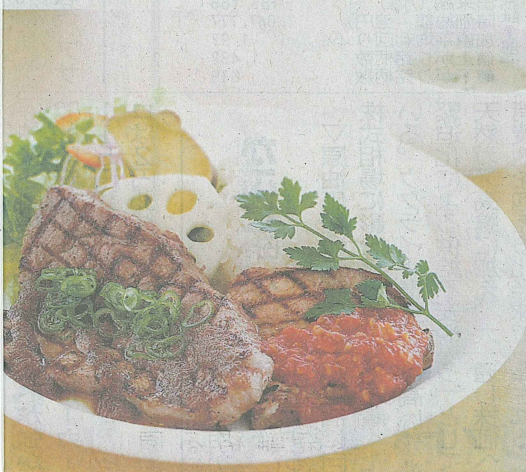
は、2019年に開発に着手した。機械メーカーと共同で、リッツ線に圧力を加え角形に成形する専用装置を開発した。新しい角形のリッツ線は同社初の独自製品。最適な強度で丸形によった後、圧力を加えて銅線と銅線の隙間を小さくする。抵抗値が減り、充電効率は丸形より2割程度向上。用途に合わせて変形できる柔軟性もある。1月にサンプル品の提供を始めた。

東特巻線によると、EVの非接触充電装置では、リッツ線をコイル状にして装置に組み込み、車両側の受電装置との間で充電する仕組みが想定される。角形のリッツ線は、銅線を同じ本数使った丸形より1.2割断面積が小さく、装置の小型化にもつなげられる。

県内休廃業・解散 4.9%減少の965件
21年「官民支援が寄与」
2021年に休廃業・解散した県内企業(個人事業主を含む)は前年比4.9%減の965件。比較可能な16年以降では2番目に少ない件数。同社松本支店は「新型コロナウイルス感染症拡大を受けた官民の経済対策の支援が抑制に寄与し

門牧場 希少和牛の肉PR

日本短角種 レストランで提供



日本短角種のステーキ(手前左)が味わえる「牧場の短角牛ステーキプレート」

きょうの人こと

ドコモCS長野支店長

佐々木 啓三郎さん



「新型コロナ禍で現地に行けない人も、遠隔で楽しんでもらえたいと思う」。ドコモCS長野支店(長野市)の佐々木啓三郎支店長(49)は、1月に信毎メディアアワード(松本市)で実施した国宝松本城イルミネーションのライブビューイングの心意気を強調。善光寺御開帳や諏訪大社御柱祭などでも「盛り上げたい」

御開帳・御柱祭 盛り上げたい
スルの取へ光のしラ協